

古典の日

二十三

福井



松尾芭蕉

奥の細道

福井八里計なれば、夕飯したためて出るに、たそかれの道たどくし。爰に等哉と云...



「奥の細道画卷」(与謝蕪村筆、京都国立博物館蔵)

新編日本古典文学全集第71巻・松尾芭蕉集2『紀行・日記・俳文・連句編』(小学館刊)から転載。校注者・井本農一、久富哲雄

蕪村の描いた隠士の住まい

『おくのほそ道』を作者とともにたどって来ながら、ぜひ一度は触れたいと思っていたのが与謝蕪村筆『奥の細道画卷』のことである。京の詩人蕪村(一七一六―一八三三)が生誕にわたって芭蕉を敬慕し、十八世紀後半の日本に率先して蕉風復興の気運をまきおこしたことは、よく知られている。その蕪村が安永六年(一七七七)から同九年にかけて、奥の細道全文を筆写し、その間に十三、四景の挿絵を入れた画卷や屏風を計七点ほど制作していた。



おのほそ道 とたずねる 芳賀徹さん

シンプルで本質的な財産

伝統と進取が混在する街、京都の素晴らしは、多くの市民と長い歴史によって作られてきたもの。

古典と私

だと思いません。街としての「長い歴史」と、それを守ってきたモノゴトの考え方は、とても貴重なものです。

ミュージシャン 岸田 繁さん



ひと言で「古典」と言ってしまうと、どうしても趣味的にピンポイントなものになりま...

歴史が生んだ財産である

に、平清盛が安芸の厳島神社から兵庫の築島に勧請したものを、後にこの地に移したのが起りといわれ、かつては九條家の鎮守社でありました。清らかな九條池の中島に建っていることから、「池の弁天」とも呼ばれ、京都御苑を散策する人たちの憩いの場となっています。本殿前の唐破風鳥居(鳥居上部の笠木と島木が唐破風の形をしている)は、北野天満宮境内にある「伴氏社」、右京区の「蚕の社」の鳥居とともに、京都三珍鳥居の一つとして有名です。(NPO法人・都草 浜田 浩太郎)



祇園女御がまつられる京都御苑の厳島神社(京都市上京区)

祇園女御と京都御苑の厳島神社

平家物語巻六の中に「祇園女御」の話が出てきます。白河上皇が祇園の近くに住む女性のもとへ行かれた時、暗闇の中で物の怪らしきものに会います。しかし、お供をしていた平忠盛の機転で、それは灯籠に火をつけようとした老法師であることがわかりました。無益な殺生をせずに済んだ上皇は、忠盛の冷静さに感心され、寵愛するその女性を忠盛に譲られたのでした。この女性こそが祇園女御と呼ばれ、平清盛の母といわれる人です。広々とした京都御苑の南部、九條邸跡に建つ厳島神社には宗像三女神とともに祇園女御が祀られています。この神社は、五撰家の一つ九條家の邸

文学ウォーク

古典文学・文化を広めようと、古典の日推進委員会は1月1日を「古典の日」と定めた。

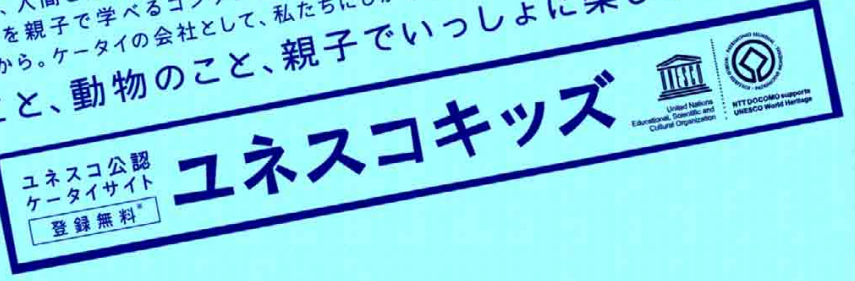
親しむ



ゴリラの鼻うた、聞いたことありますか?



気分がいいと歌ってしまうなんて、人間と同じですね。ユネスコキッズには、動物たちの鳴き声や神秘的な自然の動画など、世界自然遺産のことを親子で学べるコンテンツがいっぱいあります。自然を好きになった子どもは、きっと自然を壊さない大人になるから。ケータイの会社として、私たちにしかできないことをつけていこうと思います。世界自然遺産のこと、動物のこと、親子でいっしょに楽しく学ぼう。



ひとりひとりに、こたえを。ドコモ